



⑨ エルサルバドル

電力部門緊急整備事業 電力部門整備事業

電力供給能力の拡充と安定化を図り
経済成長に貢献

承諾額／実行額	88億1,700万円／81億5,000万円(電力部門緊急整備事業) 75億8,500万円／54億9,900万円(電力部門整備事業)
借款契約調印	1993年3月、1996年7月
借款契約条件	金利3.0%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド
貸付完了	2000年8月、2003年4月
実施機関	レンパ川水力発電委員会 URL: http://www.cel.gob.sv



本事業の目的

甚大な内戦被害を受けたエルサルバドルにおいて、老朽化が著しいアカフトラ火力発電所の修復および送配電施設の新設・修復を行うことにより、予備電源の確保を含めた電力供給にかかる能力および安定性の向上を図り、同国の戦後復興・経済成長に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) 評価 a

同国では、1996年の電力法に基づく電力セクターに関連する政府関係機関の民営化推進により、火力発電所・送配電施設にかかる事業者が変更され、民活による競争促進、効率的なセクター運営が図られている。民営化の影響により、本事業実施中において発電コストが低い水力・地熱等の電源を中心に構成されることとなり、本事業対象であるアカフトラ火力発電所は水力・地熱発電で補えない分のバックアップ電源(リザーブ電源)として活用が図られた。その結果、利用形態が当初計画から変更され、発電端電力量および設備利用率等は事業実施前より減少(約45%)した。本発電所は、設備稼働率等の低下が確認されているものの、電力需給バランスが逼迫する状況下、バックアップ電源として電力供給の安定化に重要な役割を果たしていると評価される。一方、送配電線については、送配電損失率が事業実施を通して軒並み低く(例:送電損失率は1.8%、モンセラートおよびヌエボクスカトランにおける配電損失率はそれぞれ0.86%、2.25%)、また送電線・変電所のトラブル件数、停電時間も改善傾向にある。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。



アテオス変電所

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) 評価 a

本事業の実施は、審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性は極めて高い。審査時、事後評価時を通じて国内の電力供給にかかる能力拡充、信頼性向上は、同国の優先課題として掲げられている。

事業実施の経済性(効率性) 評価 b

本事業は、事業費については計画を下回ったものの(計画比82%程度)、期間は計画を大幅に上回ったため(計画比151%程度)、効率性についての評価は中程度と判断される。事業遅延の主な要因としてはアカフトラ発電所修復にかかる追加工事の発生、送電線敷設に伴い地役権取得のための交渉に時間を要したこと等が挙げられる。

今後の展望(持続性) 評価 a

本事業は民営化後における本事業対象施設の事業者の能力、財務面、維持管理体制は問題なく、高い持続性が見込まれる。アカフトラ火力発電所では適切かつ適時に維持管理業務が行われており、各事業者の送配電部門では、年間の維持管理計画作成、人員の配置、詳細にわたった定期検査項目、工程等の規定化等、施策が講じられている。また、各事業者の財務状況は良好であり、近年継続して、黒字が確保されている。

開発途上国専門家の意見

本事業により発電容量の拡大と電力システムの改善が図られた。電力セクターの民営化により事業実施に時間を要したが、質・量ともに高い電力の供給が実現されることにより、経済活動の基盤が整備された。

専門家の氏名: Mr. Francisco Molina (エコノミスト)
アメリカン大学修士(経済)。エル・サルバドル中央銀行のエコノミスト等を歴任し、現在、エル・サルバドル政府、国際機関・援助機関・民間企業のコンサルタントとして活動。専門は経済。